



新家 眞 院長

東京大学名誉教授、埼玉医科大学客員教授、東京医科大学客員教授。1974年東京大学医学部卒業。1997年、同大大学院医学系研究科教授。自身は経内障の世界的な権威の一人で、日本経内障学会理事長も務める。

特徴 1

安心して受診・療養できるよう 院内の地域医療支援体制を強化

入院患者の平均年齢は76歳。
「世田谷区で高齢者の急性期医療を担う総合病院として、当院は在宅看護・介護など、高齢化社会における医療の使命を果たす責任があります」と新家眞院長は話す。
地域医療連携の司令塔として機能すべく着手した仕組みづくりとは？



社会福祉士、看護師、事務職員など地域と病院をつなぐスタッフたち



正真正入口には地域の提携診療所・クリニック名が表示されている

地域のために、地域とともに 高度な医療技術と温かな心で 世田谷区の医療を支える中核病院



日本医療機能評価機構認定病院 / 地域医療支援病院

公立学校 共済組合 関東中央病院

特徴

- 1 地域連携を重視した新たな仕組み
- 2 地域の健康を守る健診機能
- 3 高度医療・最先端設備を装備

高年齢者の急性期治療からがん治療・健康管理まで地域間の医療連携に注力
関東中央病院は、公立学校共済組合の嘱託病院として昭和28年に開院。現在は組合員に加え、約90万人の世田谷区民の医療を支える中核病院として、地域になくはない存在となった。平成24年9月からは世田谷区唯一の地域医療支援病院となり、地域の診療所や医師との医療連携にも力を注いでいる。
豊富にそろった診療科では、質の高い医療を提供できる人材と設備を整備。昔から東京大学医学部附属病院との関わりが深く、心臓疾患や内視鏡外科手術、ラジオ波焼灼療法、前立腺肥大症治療では全国的にもトップレベルの実績を誇る。総合病院ならではの最先端機器と充実のスタッフ体制で行う人間ドックや健診に取り組み、予防から治療まで継続的な健康管理で区民を支えている。

地域医療ネットワークをつなぐ システムの司令塔として機能

世田谷区唯一の地域医療支援病院として、充実した救急医療体制と高度医療を提供する関東中央病院。「高齢者の急性期医療を担う当院は、一心あたたく、日々新たに」という基本理念のもと、患者さんの生き方を大切にしたい。より良い医療を、温かな心で提供できる病院でありたいと考えています」と新家眞院長は話す。
今、最も力を入れているのが地域の医療連携だ。患者を受け入れ、検査や治療を行った後、また地域のかかりつけの先生に戻すだけでなく、必要に応じて地域の長期療養型病院や療養型施設にスムーズに紹介する仕組みを急ピッチで整備している。
「例えば、当院には地域保健医療室があります。ここは患者さんそれぞれが身近な地域で病状に合った適切な医療を効率良く受診できるように、関係機関との連絡調整を行う部署です。ほかにも、入院や療養生活に伴う不安や疑問に応える「医療福祉相談窓口」や入院調整看護師もおりますので、遠慮なくご相談ください。」
今後は地域連携の推進強化をめざし、人員とシステムを充実させていく。できる限り地域の中で治療が完結するように、同院が中核となって、医療のネットワークをつなぐ仕組みづくりを一層進めていく方針だという。

特徴 1

地域連携を重視した新たな仕組み

地域保健医療室

近隣の医療機関と連携し、紹介患者の受診事前予約や報告書の発送、介護施設など関係機関との連絡・調整、自宅近くのかかりつけ医の紹介などもしてくれる。

医療福祉相談窓口

患者や家族の病気に伴う心理的・社会的な問題が少しでも解決し、安心して療養生活が送れるよう、社会福祉士と一緒に考え支援してくれる。

入院調整看護師

入院中や退院後の生活の不安を、専門知識を持つ看護師が支援する。皮膚・排泄ケア、緩和ケアなど自宅でも継続できる方法をアドバイスしてくれる。